

ASEAN 共同体の形成と中国・ミャンマー関係

漢和防務評論 20150602 (抄訳)

阿部信行

(訳者コメント)

ミャンマー北部は中国雲南省と国境を接し、いざこざが絶えません。今年の3月に発生した戦闘では漢族のコーカン軍とミャンマー政府軍が戦い、双方合わせて100名を越える戦死者を出しました。また今回は、ミャンマー軍の空爆により中国側の住民が爆死しました。コーカン軍の装備はすべて中国製であり、ミャンマー政府は、中国側に善処を求めています。反応は無いようです。中国としては、ミャンマーに対する切り札になりますので、いま仲介役をするはずがありません。

定期的に行われる ASEAN 国防相会議には、議長国が中国を招待するのが定例になっていましたが、マレーシアが議長国の今年は、中国が出向くのではなく、中国の招待により ASEAN 国防相が団体に中国を訪問する方式に変わりました。中国の ASEAN 懐柔策が進展しているようです。

KDR LANGKAWI KHOO JIN KIAT 特電：

今年3月、中国雲南省とミャンマー国境のコーカン地区で最近再び紛争があった。5年にわたり流亡中の前コーカン特区主席彭家聲は、コーカン軍を率い、ミャンマー政府軍と激戦となり、双方で100名以上の戦死者を出し、数万人の漢族難民が雲南省に流入した。

今回の紛争は、2009年のコーカン軍との軍事衝突に比べても更に激しいものであった。今回の紛争は中国側の住民に空爆による爆死者が出て世界的に注目されるようになった。しかも彭家聲が発表した「世界の華人同胞に告ぐ書」は、コーカン地区を”中国のクリミア”にしようとする意図があり、更に事態をエスカレートさせた。

今年3月16日、第9回 ASEAN 国防部長級会議 (ADMM) がマレーシアのランカウェイで行われた。

2011年から、ASEAN 国防部長級会議には中国国防部長が招かれ、ASEAN 国防部長と非公式会議を行っている。

しかし今年は、中国はやり方を変更し、会議開催期間に開催国マレーシアを訪問することはせず、ASEAN 国防部長全員を中国に招き、中国と ASEAN 国防部長との特別会議を挙行了。

今回の ASEAN 国防部長級会議ではコーカン衝突事件は提議されなかった。ただ中国メディアが質問した際、ミャンマー国防部長 WAI LWIN は、「ミャンマー政府は、コーカン国境で雲南村民が爆死した事件に就いて必ず調査する」と消極的に述べた。また彼は、「ミャンマー政府は、事件で失われた被害者に哀悼の意を表する」と述

べた。同時に彼は「コーカン軍は国境で争いを造り出し、ミャンマーと中国の良好な関係を破壊しようとしているのかもしれない」と述べた。

しかし今年、正式に ASEAN 共同体と ASEAN 平和・自由・中立区条約 (ZOPFAN) が形成されることを考慮し、必要ならば、ASEAN は今後コーカン問題に介入し、紛争を調停すべきである、との声がますます大きくなりつつある。ASEAN は、他国の内政には介入しないとの立場であるが、コーカンの情勢は、完全にミャンマーの内政問題と見ることは出来ず、難民の発生は国際人道主義に関わり、今後事態が更に悪化すれば、更に多くの難民が発生し、ASEAN が政治的立場を明確にしなければならぬ可能性が出てくる。

2007 年、ミャンマーは反軍事政権デモを武力鎮圧した。当時 ASEAN は対応措置を取り、ミャンマー軍事政権のデモへの武力鎮圧を停止させようとした。

他の方面では、中国は、最も早く ASEAN 国防部長との非公式会議メカニズムを設立した国家である。記録によると、第 1 回会議は、2011 年 5 月に開催された。当時の中国国防部長は梁光烈であり、ASEAN からの招待で ASEAN 国防部長の朝食会に出席し、第 5 回 ASEAN 国防部長会議に参加中の ASEAN 各国国防部長と非公式会議を行った。

2012 年 5 月、梁光烈はカンボジアを訪問し、同時に、第 6 回 ASEAN 国防部長会議に参加中の ASEAN 各国国防部長と非公式会議を行った。

2013 年 5 月、中国国防部長は常萬全で、ブルネイを訪問した。同時に、第 7 回 ASEAN 国防部長会議に参加中の ASEAN 各国国防部長と非公式会議を行った。

2014 年 5 月、常萬全は招待に応じてミャンマーを訪問した。同時に、第 8 回 ASEAN 国防部長会議に参加中の ASEAN 各国国防部長と非公式会議を行った。

米国も続いて 2014 年 4 月、ASEAN 各国国防部長をハワイに招いて、第 1 回米国と ASEAN 国防部長特別会議を開催した。2014 年 11 月、日本と ASEAN 国防部長は、ミャンマーのネピドーで第 1 回円卓会議を開催した。

これは、中、米、日がみな ASEAN 国防部長と非公式会議のメカニズムを設立したことを意味し、近い将来、これらの非公式会議は、逐次制度化、正式化に向かうと信ずる。したがって ASEAN 内部で軍事衝突が発生し、一旦エスカレートした場合、周辺の大国が関心を示し、態度を表明するであろう。今回、日米はコーカン問題に態度を表明していない。今後の態度表明は、事態の進展次第であろう。

以上